

日本代表ドーハでメダル奪取を誓う

8日、アジア大会初のトライアスロン競技がスタート

女子は午前10時(日本時間午後4時)、男子は午後1時30分(同7時30分)スタート

12月6日(水)、中東にあるカタール国のドーハで、アジア競技会初の登場となるトライアスロンの日本選手団記者会見が行われた。

今回の日本代表メンバーは、女子は上田藍(グリーンタワー・稲毛インター)、関根明子(NTT東日本・NTT西日本)、男子は田山寛豪(チームテイケイ)、山本良介(トヨタ車体)の4名。さらに、チームリーダーを務める山根英紀強化本部マネージャーと山倉紀子が出席しての記者会見となった。

第15回を迎えるアジア大会は、北京オリンピックでメダル獲得を目指す日本ナショナルチームにとって絶好の力試しの場となる。



記者たちの質問に笑顔で答える関根、上田、田山、山本の各選手(左から)

上田 藍

(グリーンタワー・稲毛インター)



3月のプレ大会より、気温が低い。レース当日は雨の予想だがカンクンで経験済みなのでOK。高地トレーニングを行ってきたので、呼吸が楽。スイムとランの調子がいい。トライアスロンが注目されるいいチャンスなので、しっかり戦って、金メダルを胸に、日本に帰りたい。

関根 明子

(NTT東日本・NTT西日本)



食事いつもより多く取れていて調子がいい。今日から急に身体の反応が良くなった。やはりランの調子が上がってきた。中国の選手は気になるが、とらわれずにいつものレースをしたい。日本のトライアスロンの代表として、堂々と戦って勝ちたい。

山根 英紀

(ナショナルチームリーダー)



3日(日)に到着して、ワールドカップやオリンピックよりも調整の日程にゆとりがあるので、どの選手の調子も上がっている。明日もう一日調整ができるのでとてもよいコンディション。思ったより気温が低い、悪い季節ではない。食事もおいしいし、メダルを期待してください。



日本代表ドーハでメダル奪取を誓う

8日、アジア大会初のトライアスロンがスタート

オリンピックやITUワールドカップと違うところは、参加する国が絞られ、さらに一国当たりの選手が2名となること。これにより、レース内容が大きく変わってくる。

女子では、日本の直接的となるのは中国のリン・シンとワン・ホンニとなる。二人ともスイム、ランに力を持っているだけに侮れない。男子では、カザフスタンのドミトリー・ガーグとダニール・サプノフが好敵手となる。2004年のアジア選手権で、このカザフスタン勢の後塵を拝しただけに気をつけなければならない。

女子のスタートは、8日(金)午前10時(日本時間午後4時)。男子のスタートは午後1時30分(同7時30分)だ。



笑顔でメダル奪取を誓う日本選手団

田山 寛豪
(チームテイケイ)



自然に身体が動く感じで、とても調子がいい。3種目のうち、いまはランの調子が上がっている、とてもいい感じだ。アジア大会に出られるのも、これまでの先輩たちが道を開いてくれたから。後に続くU23、ジュニアの選手たちのためにも、勝って後進への道を残したい。

山本 良介
(トヨタ車体)



こちらに来て、全体に調子がいいのだが、なかでもバイクがよい。コースが単調なので、バイクで差をつけるには技術が必要。スイムから田山選手と逃げて、バイクで同じバックで戦い、ワン・ツウを決めたい。自分らしいレースをして、メダルを取って帰りたい。

山倉 紀子
(女子担当マネージャー)



体調を崩す選手もなく、いつも元気よく、よく食べて、よく練習して、よく休養を取っている。食事は、自分の好みのものを見つけて、持ち込んだ日本食で補っている。毎朝、今日の調子はどうかと選手のことが気になるが、心配する必要ないくらい順調だ。

